

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	次世代を担う看護職の育成のために 交流と協働の礎を
別タイトル	To foster the next generation of nurses The foundation for interaction and collaboration
作成者(著者)	福島, 富士子
公開者	東邦看護学会
発行日	2022.03.01
ISSN	21855757
掲載情報	東邦看護学会誌. 19(2).
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD02772425">https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD02772425</a>

# 次世代を担う看護職の育成のために —交流と協働の礎を—

To foster the next generation of nurses  
- The foundation for interaction and collaboration -

東邦看護学会 理事長  
福島 富士子

新型コロナウイルス感染症はデルタ株による第5波で終息に向かうことを期待しておりましたが、残念ながら専門家の先生方の予測通り感染力の強いオミクロン株による第6波が起っています。こうしている間にも医療人材の派遣を政府が全面的に確保するというニュースが流れてきました。ICT化が進む中でも臨床の場で対面を余儀なくされる職務の方々への負担はますます大きくなってきています。そのような中、三病院の皆様には、学生の臨地実習をお受けいただき、心より感謝申し上げます。一刻も早いコロナ禍の終息を願うばかりです。

さて、超少子高齢化による人口構造の変化、医療の高度化や先端医療技術の進歩、さらに、地域における包括的ケアの推進を背景に、2022年度から看護教育カリキュラムが変わります。

教育課程の編成として、卒業時に習得できている能力だけに着目するのではなく、卒業後、自分自身で物事を考え、組み立て、学習した知識、技術を統合していく力を獲得できるように教授していくことが重要とされています。

この改定では、これまで以上に高い実践能力の育成が必要とされています。そのためには臨床判断能力の基礎となる臨床推論力の習得が必要となります。これを踏まえ、臨地実習では、教育効果を高める観点から各教育機関の裁量で領域ごとの実習単位を一定程度自由に設定できるようになりました。看護学部、健康科学部とも検討を重ね、2022年度から新カリキュラムに移行します。

次なる課題は臨地実習の質の保証と充実に向けた検討を続けていくことです。またカリキュラムの改定は卒後教育とも関連しますので、これまで以上に臨地の指導の力をお借りし、協働による教育を行っていきたいと思っています。臨地実習の学修目標から、さらに教育方法や実習科目の体制づくりまでに踏み込んだ内容への検討を教育現場と臨地の現場の教職員が一体となり、継続的に行っていくことが大事ではないかと考えます。

東邦看護学会は三病院と二学部が基となる学会です。東邦の次世代の看護を担う学生の看護教育の仕組みづくりと一緒に検討する体制を作る礎となることを期待しております。会員同士が学会を契機にさまざまな日常の交流も図っていただければ幸いです。

本日も東京では1万8000人を超す新型コロナウイルスの新たな感染者の報告がありました。年代別では10歳未満が最多となっています。一日でも早くコロナ感染が終息し、対面による交流も行える時が来ることを願ってやみませんが、現状ではコロナ禍においても昨年の学術集会のようにITの活用を含め、魅力的な学会運営をめざしてまいります。今後とも会員の皆様の東邦看護学会へのご理解と温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。